

2019年度滋賀森林インストラクター会県外研修報告

以下の項目は予定していた実施計画です。今後のために掲載しておきます。

-
- | | |
|---------|--|
| 1. 日時 | 2019年6月 29(土)・30(日)
<u>大津駅前逢坂市民センター前バス乗降場集合 7:50</u> |
| 2. 研修場所 | 岐阜県・北飛騨 飛騨市天生県立自然公園&池ヶ原湿原 |
| 3. 内容 | 1日目 池ヶ原湿原
2日目 天生県立自然公園(天生湿原、木平湿原) |
| 4. 日程 | 29日 バス乗降場 8:00 発—大津 IC—養老 SA(休憩)—(名神・東海北陸)—ひるがの高原 SA(休憩・ファミマで昼食購入)—飛騨清見 IC—(バス内で昼食)—池ヶ原湿原 13:00~17:00(1日目研修)—宿 18:10
30日 宿 8:00 発—(飛騨市内のコンビニで昼食購入)—天生峠・天生県立自然公園 9:00~15:00(2日目研修)—飛騨清見 IC—ひるがの高原 SA(休憩)—養老 SA(休憩)—大津駅 20:00 |
| 5. 交通機関 | ムラタ観光マイクロバス |
| 6. 参加者 | 佐々木建雄、梶谷栄治、高橋優、下川茂、下川明美、平田明、平田輝子、山口朋子、山口はるか、橋木啓子、橋木文雄、関澤友規子、小西民人、(以下3名は途中乗車) 中川仁男、高森陽子、長澤由香里
男8名 女8名 計16名(4部屋確保・実際は6部屋) |
| 7. 宿泊地 | 国民宿舎 霜出荘 岐阜県飛騨市神岡町伏方 281 標高 715m
☎ 0578-82-1654 1泊2食 8,316円(参加者数によって微増減あり) |
| 8. 持ち物 | 野外観察に適した服装、着替え、軽登山靴かズック靴、サブザック、水筒、スマホ・携帯(電源)、雨具(防寒着を兼ねる)、タオル、虫除け、救急薬、帽子、ストック、軍手、メモ帳、筆記具、図鑑、カメラ(電池も)、双眼鏡、ルーペ、現金(宿泊代、2度の昼食代、お土産代等)、
※ 歯磨きセットやドライヤー、浴衣などのアメニティは宿に揃っている。 |
-

① 実際の行程

- 6月29日(土) 大津駅前バス乗降場 7:58 発 — 大津 IC — 伊吹 PA 8:57(3人乗車) — 養老 SA 9:10 休 9:25 — ひるがの高原 SA 10:41 休 10:58 — 飛騨清見 IC 11:17(6,460円) — 池ヶ原湿原 12:37(1日目研修) 15:30 — 霜出荘 16:40
- 6月30日(日) 霜出荘 8:58 — おおくら滝遊歩道入り口(清見庵おおくら店)9:57(2日目研修) … 川の字橋 11:50(増水のため引き返し) … そば処清見庵 12:30 昼食 13:33 — おおくら滝上 13:45 … おおくら滝 … 滝上 14:20 — (飛騨せせらぎ街道) — 道の駅めいほう 15:20 休 15:38 — 郡上八幡 IC — 養老 SA 16:51 休 17:07 — 伊吹 PA 17:20(3人下車) — 大津 IC 18:11(5,130円) — 大津駅前 18:16 解散 お疲れさまでした。

② 1日目研修 池ヶ原湿原

会報 24 号に高橋さんが速報をあげているので、いくつかの写真はそちらをご覧ください。

走行中のバスの中で昼食をとり、池ヶ原湿原に着いたのは昼過ぎ。時折雨がぱらつく天候の中をカップなどの装備を整え湿原へと繰り出しました。シラカンバの林から湿原に入ると、大きく育ったミズバショウが出迎えてくれました。ここ池ヶ原湿原は低層湿原で、栄養が豊富。特に周辺部は顕著で、ミズバショウやザゼンソウなどかなり巨大化したものが確認できました。

下の散策マップのように、まずは湿原の中央を縦走する木道を散策し、湿原が切れたところから山手に入って林間遊歩道を通り湿原口に戻る。そこから車いす用の遊歩道に進み、再び最初の木道を逆走して湿原口、駐車場へと戻るというコースをとりました。散策途中に観察できたものを植物、動物の順に写真で紹介します。



湿原内の水路:リュウキンカや奥にミズバショウが見える。



ベニバナイチヤクソウ(ツツジ科)
亜高山帯の針葉樹林内に多い。



リュウキンカ(キンポウゲ科)の果実 はじけて上に大きめの種子を載せている。雨粒による播種。



カキツバタ(アヤメ科) 外花被片の中央に白い筋。葉の中肋が目立たない。



オオカワズスゲ(カヤツリグサ科) 花茎は太く、3稜形。高地の富栄養な湿地。



ミズチドリ(ラン科) 湿地に生育する貴重植物。岐阜では絶滅危惧Ⅱ類。



オオヌマハリイ(カヤツリグサ科) 湿地の水辺に多い。沼に生える大型の針蘭の意。



ビッチュウフウロ(フウロソウ科) 岡山県の標本をもとに命名。中国地方と岐阜県に多産。



クサレダマ(サクラソウ科) マメ科の低木レダマに似る。草レダマ。湿地に多い。



樹幹流。雨の日にか見られない。水の流れがよくわかる。



ヤマオダマキ(キンポウゲ科) 苧環とは麻糸を巻いた管のことで、距の立った花の形から。



ヤチダモ(モクセイ科) 中部以北の冷温帯の多湿地に生育。ここが南限あたり。小葉基部の褐毛塊はこの種のみ。



ノダケ(セリ科) 頂小葉の基部が次第に細まり葉柄に流れる。暗紫色の小花を多くつけるセリ科は少ない。



モリアオガエル(アオガエル科) 目の虹彩が赤い。



オナガミズアオ(ヤマモリ科) ハンノキ類。



キオビゴマダラエダシャク(シャクガ科) サワグルミ、ヌルデなど。

その他、ミズバショウ(サトイモ科)、ザゼンソウ(サトイモ科)、ショウブ(ショウブ科)、コオニユリ(ユリ科)、オオナルコユリ(キジカクシ科)、リョウハクトリカブト(キンポウゲ科)、ミヤマイラクサ(イラクサ科)、ヤマグワ(クワ科)などが見られました。

③ 2日目研修 おおくら滝遊歩道

前日の夜の激しい雨音で湧き上がる嫌な予感を打ち消しながら朝を迎えました。でも案の定、朝から雨。外から聞こえてくる地域防災のアナウンスは「奥飛騨地方に大雨警報が出ています」との非情な声。地域の消防署に問い合わせしてみると、「天生方面は避けた方がよい」とのありがたくない返事でした。結局、皆さんに探してもらって、急遽、高山市のおおくら滝遊歩道に行くことに決定。天生湿原は今後の課題ということになりました。

宿を出て1時間ほどで遊歩道入り口にある「そば処清見庵」に着きました。ここで遊歩道の情報や散策マップを手に入れ、お昼の予約もして、①全体写真も撮って、いざ出発。滝をめぐる百滝コースへと歩を進めました。途中で見たクロモジらしき木は②ウスゲクロモジ(ミヤマクロモジ)。白竜橋から下流を見ると、③激しく増水した滑座(なめくら)の滝とその傍のハウチワカエデ。百滝コースの案内板付近で見たピンクの花は④ミヤマトウバナ。さらに進んでカツラの大木の林床にノブキの群れがあり、近くにシダ植物の⑤ナガホノナツノハナワラビの姿も見かけました。⑥羽衣の滝、⑦昇竜の滝と順調に進んで、⑧川字(せんじ)橋へ。川字橋は上に水が溜まり、さらにその先は道が滝のよう(会報に掲載の高橋さんの速報の写

真を参照してください)。とても長靴なしでは進めない状態でした。ここで諦めて引き返すことになりました。引き返す途中で、⑨ウメガサソウの蕾や、チドリノキとサワシバの違い、⑩寒さで動けなくなったエゾハルゼミなどの観察を行いました。無事清見庵に到着。予約していた蕎麦などの楽しい昼食です。昼食後、マイクロバスで眺望コースを上ってもらい、辿り着けなかった⑪おおくら滝の見学、近くで咲いていた⑫ウツボグサを確認。バスの駐車位置で、カエデの仲間を中心とした樹木の同定会を行いました。

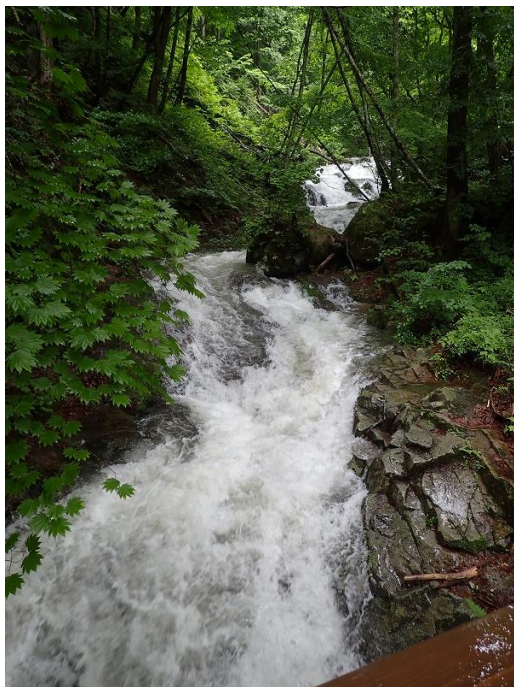


② ウスゲクロモジ(クスノキ科)

別名ミヤマクロモジ 他のクロモジと違って葉脈がよく目立つ。雨に濡れて判りやすくなっている。葉はオオバクロモジと同じくらい大きい。



① 全体写真 16人の精鋭部隊？



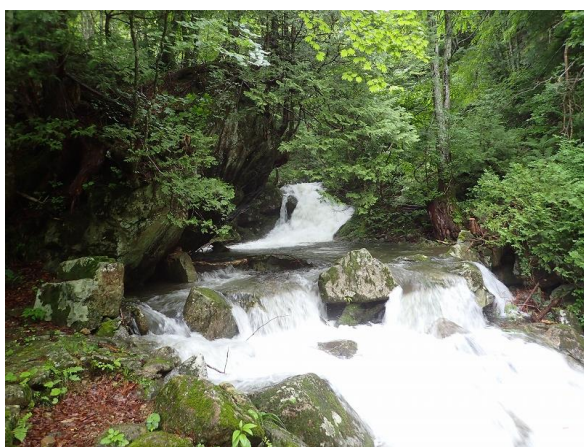
③ 白竜橋から滑座の滝(上が下流)
左手にハウチハカエデ(ムクロジ科)



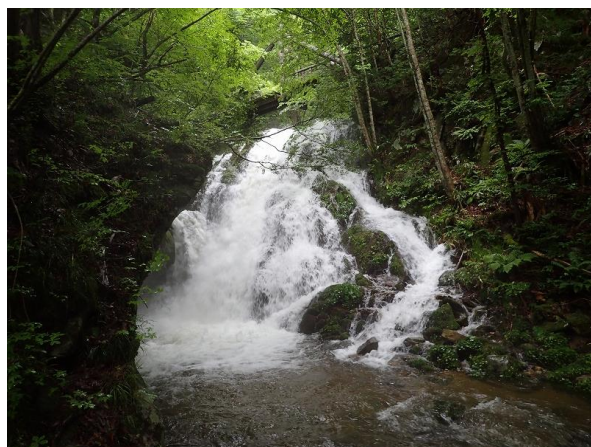
④ ミヤマトウバナ(シソ科)
トウバナ・クルマバナの仲間は大変よく似ていて、同定が難しい。花形から。



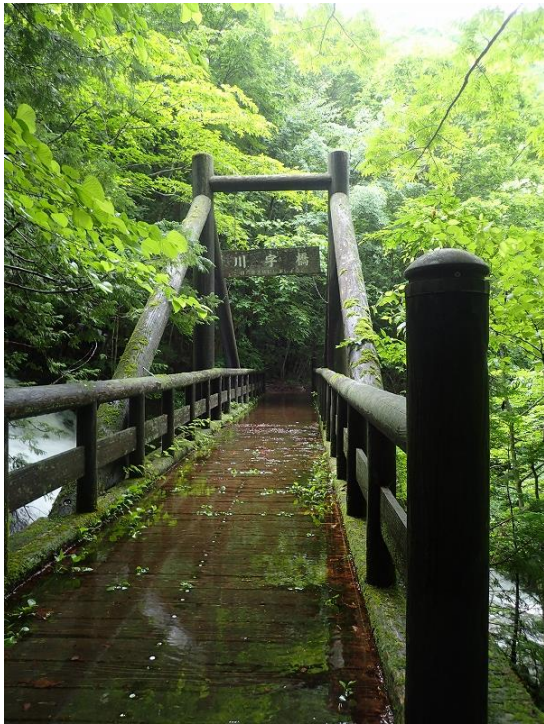
⑤ ナガホノナツノハナワラビ(ハナヤスリ科)
東日本に多く、西では稀。夏緑性で秋に枯れていく。シダの中でも原始的な仲間。



⑥ 羽衣の滝



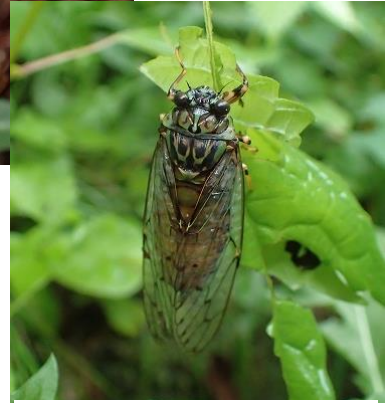
⑦ 昇竜の滝



⑧ 川字橋 橋の上は水浸し。橋の下流側の岩に水の流れが3本。「川」



⑨ ウメガサソウ(ツツジ科)の蕾
常緑の多年草。



⑩ エゾハルゼミ(セミ科ハルゼミ属)♂



⑪ おおくら滝 激しい水飛沫であつという間に服がどぼどぼ。落差30m。
クモキリソウ、ヤマハタザオ、ウバユリ、ホガエリガヤなど。



⑫ ウツボグサ(シソ科)

その他、観察できたものは
ハウチワカエデ、コハウチワカエデ、ヒナウチワカエデ、オオモミジ、ヤマモミジ、イロハモミジ、エンコウカエデ、ウリハダカエデ、チドリノキ、アワブキ、ウリノキ、サワグルミ、オニグルミ、イワガラミ、ツルアジサイ、コアジサイ、ヤマアジサイ、ノリウツギ、アカシデ、サワシバ、クマシデ、カツラ、フサザクラ、イヌブナ、ヤマナラシ、モミ、ミズナラ、ハナイカダ、
(文責 小西 民人)